

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 総合政策学部 |
| 大項目 | 4 教育研究組織 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 |
| 要素 | 教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況 |
| 小項目 | 4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|---|---------------------------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学部教育活性化推進委員会のもとで複数教員の参加によるシンポジウム等を定期的に開催する | →シンポジウム等の開催回数 | A | A | A | A | / |
| 2. 適切な特定プロジェクト研究センターの立ち上げ及び見直しにより共同研究を推進する | →特定プロジェクト研究センターの研究会等の開催回数 | B | B | B | B | / |
| 3. 学部研究会の開催により教員の研究分野の相互理解を促進する | →学部研究会の開催回数、出席者数 | A | A | A | A | / |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|---|
| 目標1 | 2012年度は2011年度に引き続き、都市政策学科の教員を中心としたシンポジウム「3.11からの復興・展望～わが国の未来を考える～」を2回にわたって開催した。また、5月には総合政策研究科とともにリサーチ・コンソーシアム記念事業を開催したほか、11月にはリサーチ・フェアを開催して、学部生等の研究成果の公開に努めた。前者では産官学民の共同研究体制であるリサーチ・コンソーシアムを通じて、また後者では他学科、他大学ならびに高等学校との連携で、活発な議論を交わすなど、総合政策学部の理念・目的にあった教育・研究効果をあげることができた。 |
| 目標2 | 2012年度は、7つの特定プロジェクト研究センターが運営されており、それぞれに成果を収めている。将来は、特定プロジェクト研究センターをベースとした各種研究組織を立ち上げ、複数分野間の共同研究を活発化させ、産官学民の共同研究を進めることを検討している。 |
| 目標3 | 2012年度は、学外から招いたゲストスピーカーや新任教員等を中心に講演会を計10回、新任教員研究発表会を計9回、英語(E L P)教育勉強会(F D共催活動)を1回開催して、相互の研究活動への理解を深めた。 |
| 備考 | 今後は、学部全体で異分野の教員間の共同研究や、学外の大学・団体・企業等との共同研究体制を構築していくことを検討している。 |